

## 世界の人とふれあいタイム



### 「ブルガリアの話」

平成 24 年 9 月 29 日実施

今回のゲスト、鈴木ゲルギナさんは、小学校で英語の先生をされ、その傍らプライベートでドイツ語を教えています。

最初に紹介して頂いたのはブルガリアの各地で毎年 1～3 月に開催されている「ククリ」。(写真 1)

秋田のなまはげに似た祭り、家族の健康や豊作を祈り悪魔除けをする民族行事。獣系の被り物を身に着け、町中を練り歩きます。以前は男性のみで行っていましたが、最近では若い女性も多いとの事です。

次に紹介されたのは、残り炭火の上を裸足で踊る、「ネスティナルストヴォ」(写真 2)です。人口 100 人以下の 5 つの村で伝統行事の日で開催されています。「ネスティナリ」という踊り子は特別な DNA を持っていると思われていて、足の痛みは 7ヶ所ほどだそうです。



(写真 1: bulgariaforjapan.wordpress.com)

(写真 2: bulgariaforjapan.wordpress.com)

有名な料理は、ひき肉を固めて焼いた細く小さなハンバーグ「ケバプチェ」です。そのまま食べたりヨーグルトソースをかけたりします。ヨーグルトの酸味のきいた、「タラトール」はヨーグルト、キュウリ、ニンニク、クルミなどを原材料とする冷たいスープ。

一方、ピタ(パン)も有名。強力粉、ヨーグルト、卵、砂糖を混ぜて作り、塩、甘い唐辛子、蜂蜜を好みでつけて食べます。

ダンスはゲストのゲルギナさんも小さい頃から馴れ親しんでいて、小学校からダンスの授業があったそうです。ダンスは 300 種類もあり、結婚式での一番人気もダンスで、300 人もの大勢の人が、輪になって踊ります。

お守りの「マルテニツァ」は健康を願い、また悪霊から身を守ると言われています。伝統的なものは羊毛、絹や綿で、赤と白の糸を一緒にねじって作ります。銀のコイン、ビーズなどと組合せて作る様々な種類もあります。「マルテニツァ」は子どもの頃からよく作ります。

ブルガリアの気候は日本と同じ四季がありますが海岸地方では春は寒く、秋冬は暖かな陽気です。

広く使われているのは「キリル文字」、それ以外に、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語等の文字も使用されています。

小学校ではブルガリア語、中学では英語の授業があり、ゲストのゲルギナさんはドイツ語とロシア語も理解されているそうです。

ヴェリコタルノヴォ大学では日本の歴史などを学ぶ学生たちが日本文化祭を開催するそうです。

近所の方との交流の場では、男性はギリシャ語、イタリア語、フランス語を、女性はブルガリア語を話します。



来場者がペアを組み、「マルテニツァ」作りを楽しんでいる様子

話題は主にお金、健康、病気等で、たとえ言葉が通じなくても心で感じあうことができるとの事です。また、ここでの会話の中身は日本と同じで、あまりはつきり言えないし、言わないとの事でした。

年金生活者にとって、年金だけの生活は難しく、子供に面倒を見て貰っているそうです。因みに農業従事者の年金が一番高いそうです。

アンケート結果も殆んどの方から、「大変良い」とあり、以前、ブルガリアに滞在されていた方からも「再度訪れたい」と回答が寄せられました。

世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉

※ 次回：11 月 25 日(日)は「インドネシアの話」です。ぜひご参加ください。

### 中学生の職場体験

9 月、横山中学と打越中学の生徒さんが、当協会で 3 日間の職場体験をしました。仕事を体験することで、多文化共生の大切さや国際理解についてなど、多くのことを学んだことでしょう。



ブルガリアの講師と話をする



メッセージボードの制作

\*国際交流フェスティバル用メッセージボード制作の手伝い。

\*高校進学ガイダンス用ガイドブックの製本の手伝い。

\*日本語を学ぶ外国人と交流。 など